

～The Great Luck 音声 10～

こんにちは佐藤文昭です。それでは今からですね、追加の音声を収録していききたいと思います。今日のテーマに入る前にですね、実は今ですね、少しだけ日本の方に帰国しております。日本に着いたらすぐに神社とか、または自然の中に行きたくなるんですね。日本の清らかな気を感じたくなるんですね。

で、もちろん神社にも行っただんですけども、その後に公園を散歩したくて歩いてましたら、その公園にはですねえ、子供向けの遊具、滑り台とか、そういうやつが置いてあります。そこにですね、その蜘蛛の巣が張られています。

子供たちも、そこに引っかかってしまうと、嫌な思いをするかなと思ったんで、それを取ろうかなと思い、近づいていったんですねえ。そうするとですね、真ん中あたりに蝶々が引っかかっていたんですね。で、その蝶々は全く動かなかったんで、だいたい時間が経つのかなと思っていたんですね。

その蜘蛛の巣を遊具から外そうと指でくつついてる部分を取り始めたんですけど、そうするですね、そのくつついている蝶々はですね、パタパタし始めたんですよ。なので、おそらく、引っ掛かったばかりなのかなっていう感じもしたんですよ、おお、まだ生きてるなと思ったんですよ。

その蜘蛛の巣の両サイドを外したところですね。そのクモの巣が下に落ちたわけですよ。芝生の上に落ちたんですよ、やはり蝶々は蜘蛛の巣の粘性というか、すごい粘りには自力では外せないわけじゃないですか。

なので、外してあげようと思ってですね、その蝶々に近づいて、しゃがんだんですよ。そうすると、これはもう私と一緒に行ってた人間が見たんですよ、私の後ろで見てたんですけども、その私の背中にですね、三匹の蝶々が止まったらしいんですよ。なので、おそらく、蜘蛛の巣に引っかかっている蝶々のご家族なのかなあっていう気もしたんですよ。

結構取るのが大変だったんですけども、なんとか外したんですよ。蝶々を。で、離してあげて飛び立っていったんですけども、やはり、その背中に蝶々は三匹、本当は三頭とも言いますけども、まあ、ここは三匹でいきましょう。三匹も背中に止まるって、ほぼほほほいですよね。シチュエーションとして。なので、ご家族としか、もしくは仲間としか思えないというふうに思ったんですけども、やはり蝶々の中でもそういうね、助けたいっていう思いっていかですね、すごい愛を感じることができた瞬間だったなというふうに思ってますね、今回冒頭で共有したいなと思って、お話しさせていただきました。

人生のシナリオに組み込まれた「50÷50の法則」

今日のテーマにもつながるかなとは思いますが、今日は、その50÷50、フイフテイフイフテイっていう、お話をちょっとしてみたいなと思って思いました。で、どういうことかということです。例えば、自分が私ですね、ひらがなの「わたし」という存在が、この地球を生きる上で、ミトコンドリアである漢字の「私」を作り上げて、その中に入り込

んだってというお話はTheGreatLuckの中でお話しさせていただきましたが、そのひらがなの「わたし」が結局、この地球で大いなる体験をしたくなって、そういう設定をしたわけじゃないですか。

その時に台本のシナリオというものをある程度作っているわけですよ。で、そのシナリオというものが、どういう構成になっているかっていう話なんですけれども、おそらくフイティフイティという法則があるんじゃないかなっていうふうに思うんですよ。

どうということかというたとえば、自分が喜ぶことっていうものを50にしたら、ちょっと辛いとか、厳しいなっていうような思うことを50っていうふうに。こう同じくバランスが取れるように人生の中に入れ込んでいってるんじゃないかなというふうに思うんですね。

どうしてかという、例えば空腹がなければ、おいしさというものを感じないわけですよ。常に美味しいものばかりを食べ続けていけば、美味しいっていう、味覚の感動とい

うものを得られないわけじゃないですか。なので、そこには空腹っていうものが必要なわけですね。

つまり、すべて対になるものが必要になってくる。例えば、春っていうものは、冬があるからこそ、暖かいっていうかポカポカしてきたっていう感覚になるわけじゃないですか。秋っていうのは、夏があるからこそ、涼しくなってきたっていうふうになるわけですよ。でも、実際には、秋と春っていうのは、秋の方が気温は暖かいわけですよ。春の方が秋よりも寒いわけですよ。でも、春は暖かい、秋は涼しいっていうふうに表現する。それは1つ前の季節。冬であったり、夏であったり、その対比があるからこそその感動っていうものがあるわけですよ。冬の寒さがあるからこそその春の暖かさで、夏の厳しい暑さがあるからこそその秋の涼しさっていうね。そういう対比の部分ですよ。

なので、自分が喜ぶことを50を作ったとするならば、それを感じるための逆のことを50っていうね、そういう法則というものが、仮に自分で設定しているのだとするとですよ。それを今度、自分の中でどう捉えていくかっていうふうに見ていくわけですね。

「あの人」は、99人分の逆境を一人で背負ってくれているのかもしれない

人生を良い面を捉えるゲームとして、その50というものをどう良い面として捉えるかっていうのは、今回の本の中でもお伝えしているとは思いますが、今回はちょっと違った形でお伝えしたいなと思っていてるんですね。

それはどういうことかという、50の現象に対して、逆側も50なのかって言ったなら、実はそうでもないなっていうふうに私は思っているんですよ。例えば、なんだろうな、厳しい上司がいるとするじゃないですか。自分にとっても厳しい上司がいる。本当に嫌い。もう本当に顔を見るだけで嫌っていうような人がいたとします。その時に、それが逆側って

ことは、反対側にはすごく自分を大事にしてくれる人、優しくしてくれる人がいるわけですよ。

その時にそういう自分に優しくしてくれる人、大切にしてくれる人っていうのが、例えば、99人でもいいんですけども、99人いたとするとですよ。じゃあ、自分に対してその逆の学びを得る人間が99人に現れるかといったら、実はそうではなく、エネルギーの総体だっていうふうに捉えた方がいいかなというふうに私は思うんですね。

どうということかという、99人自分に優しくしてくれる人がいたとして、それに対抗するために、たった1人で対抗してくれる人がいる可能性があるわけですよ。つまり、1..99っていうね。1人対99人のエネルギーで均衡を保つっていうことがあり得るんですよ。

要は先ほど言った厳しい上司とかね。自分に嫌なことをする上司、自分に冷たくする上司っていうものがいたとしたときに、もしかしたらそのたった1人で、優しい方の99人分を頑張って賄っている、99人分頑張っているっていうね。それが1人で99人分のエネ

ルギーを背負ってるっていうイメージですって考えたら、自分の周りに99人現れるよりも、たった1人、その人がいるだけで済んじゃってるってことなんですよ。

「感謝」が生まれた瞬間に、現象は消える

それって、よく考えたらとってもありがたいことですよ。たった1人で99人分のエネルギーを背負ってくれるんです。だから、それがわかった瞬間に感謝が生まれるんですね。その人に対して、この人は自分でプラスの方の99人分のエネルギーを、たった1人で受け持ってくれてるんだ、というふうに感謝が芽生えてくるわけ。そうした瞬間に、実はその現象が消えていくっていうことが起きていくんですね。

これは私自身も体験をしているので、そう言えるんですけども、要は本当に感謝に変わった瞬間に。その冷たくされるとかね、厳しいという現象が消えちゃうんですよ。もうそのターン、そのエネルギーの勉強は終了っていうことなんです。終了してから、じゃあ次のステップに行きますねっていうことで消えるんですよ。その現象で。

なぜ、身近な人が「その役」を担うのか

往々にして、その自分に対して厳しいことを言う、冷たいことを言う、自分がイライラしてしまうようなことを言うてくる人っていうのは、なかなか離れられない関係性にある人物に現れる傾向があるんですね。つまり、自分の親であったり、自分の妻であり、夫でありとか、あとは家族ですよね。

家族とかっていうのは、やはり一度つながっている家族っていうのは、なかなか離れることはできない。つまり、その学びから離れさせないよっていう、そのひらがなの「わたし」からの指令なわけですよ。簡単に、本当に知り合い程度の一回ぐらいしか会ったことないっていう程度の人が、そういう嫌味を言うてくるってなると、もう二度と会わないとかっていう選択肢が可能なわけじゃないですか。そうになると、その学びっていうものは、また次に行ってしまうので、また次のね、別の人間によって同じことが行われるので、やはりそこで学ばなきゃいけないわけですね。

つまり、自分から離れられない存在に、そういうことが起きる現象っていうのが本当に多いですね。なので、おそらくパートナーの方で、そういうことが起きるといことが、結構な確率であるかなというふうに思うんですね。

視点を变えれば、苦手な人が「ありがたい人」に変わる瞬間

今のこのお話を理解し自分の中で納得できたのであれば、逆にそのたった1人で、自分の周りの逆側のエネルギーの99人分をカバーしていると、なんか本当にありがたいなってくるじゃないですか。バランスは必ずあるので、50:50というエネルギーバランスがあると仮定するのであれば、必ず逆側も自分で体験しなきゃいけないわけですね。

その体験を50人分で体験せずに、たった1人でいいわけですよ。たった1人で体験するだけで、逆側のすごくいい方のエネルギーっていうのを全部カバーしてくれるとなると、本当に1人で頑張ってくれてたんだっていうね。感謝に変わっていつてしまうんですね。

私も昔それが分かった時があつて。本当に1人で頑張ってくれてたんだっていうふうに思つて、感謝が心から芽生えたんですね。本当にありがたいなっていうふうにも思つて、ありがとうって心から言つたんですね。そうした瞬間にその勉強は終了したんですね。なので、その現象がなくなりました。これは実体験の話ですね。

なので、この50÷50というエネルギーバランスの法則というものを、自分の中で1つ持っておくだけで、例えば自分に何かこう嫌なことをする人が現れたりした時には、この人は逆の嫌なことをしてくる、逆側のエネルギーの役をやってくれて、そういうパートをやってくれてるんだっていうふうに思うことができるんですよ。そうすると、ありがたいなっていうふうに思ってくるわけですよ。

なので、そこでしっかりと心から感謝をすることによって、その現象は本当に無くなるわけですね。なので、ぜひね、その自分に対して嫌だなあつて思うような方がいらっしやるのであれば、実はその人は、そういう役割をねしてくれていると、自分の台本の中でし

てくれているんだという認識に切り替えるだけで全く違った結果、違った現象というものが起きてくるので。ぜひねえ、考えてみてもらえたらなと思います。

今日のお話はですね、なかなか自分の中で落とし込んで納得するまでってというのはね、時間はかかるかもしれないんですけども、やる価値はものすごくあるかなと思いますので、今日は、このテーマで収録させていただきました。では、また次なるテーマというものを話したくなったときには追加音声で録音したいと思います。今日は以上となります。ありがとうございます。